

週間展望(6/27～7/3)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

日産証券株式会社

〔1〕

目次 (2022/6/27号)

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定 : 「ECB中央銀行フォーラム2022」が注目	・・・ P 3
■ 前週Review : 「欧米 v s 中国・ロシア勢の構図」明確に	・・・ P 4
■ ドル円 : 24年ぶりの円安ドル高値水準	・・・ P 5
■ 金 : 200日移動平均線を中心とした保合い形成	・・・ P 6
■ 白金 :	・・・ P 7
■ ゴム :	・・・ P 8
■ 穀物 :	・・・ P 9
■ 原油 : OPECプラス閣僚会合、現状維持か？	・・・ P 10
□ 騰落率 (年間・月間・週間)	・・・ P 11
□ ミシガン大学消費者態度指数・ドイツIFO業況指数	・・・ P 11
□ ETF (金・白金)・EIA原油在庫	・・・ P 12
□ USDA生育進捗率・USDA作柄	・・・ P 13
□ 週間輸出成約高・期末在庫率	・・・ P 13
□ CFTC建玉明細 (ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金) (NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン)	・・・ P 14～15

CX週間展望（6月27日～）

【週間スケジュール(6月27日～7月2日)】

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			1	2	3	4
			ユ ユーロ圏失業率 米 製造業PMI 米 ISM製造業景気指数 カ カナダ中銀政策金利	米 ADP雇用者数 米 耐久財受注 米 製造業新規受注 OPECプラス閣僚会議	米 雇用統計 米 ISM非製造業景気指数 中 休場（端午節）	
5	6	7	8	9	10	11
	中 財新サービスPMI	米 貿易収支 豪 豪中銀政策金利 日 骨太方針2022閣議決定	日 経常収支 日 貿易収支 日 GDP ユ ユーロ圏GDP 米 卸売り在庫 OECD世界経済見通し	中 貿易収支 ユ ECB政策金利 OECD閣僚会議（～10日） UNCTAD世界投資報告	中 消費者物価指数 中 生産者物価指数 米 消費者物価指数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数	
12	13	14	15	16	17	18
第12回WTO閣僚会議（～15日、ジュネーブ）	日 景気判断BSI	日 設備稼働率 日 鉱工業生産 ユ ユーロ圏鉱工業生産指数 米 生産者物価指数 米 FOMC（～15日）満月	日 機械受注 中 鉱工業生産 中 小売売上高 米 小売売上高 米 NY連銀製造業景気指数 米 FRB政策金利 米 対米証券投資	英 英中銀政策金利 米 フィラデルフィア連銀景況指数 米 住宅建築許可件数 米 住宅着工件数	日 日銀政策金利 日 鉱工業生産指数 米 設備稼働率	
19	20	21	22	23	24	25
米 奴隷解放記念日	米 奴隷解放記念日休場	米 中古住宅販売	英 消費者物価指数 英 生産者物価指数 日 参院選公示	米 経常収支 米 製造業・サービス・総合PMI EU首脳会議（～24日） BRICS首脳会議(オンライン)	日 全国消費者物価指数 中 新築住宅販売戸数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数	
26	27	28	29	30	1	2
G7首脳会議（～28日、ドイツ・エルマウ）	米 耐久財受注 米 中古住宅販売成約件数 欧 ECB中央銀行フォーラム（～29日）	米 卸売在庫 米 S&Pケースシラー20 米 CB消費者信頼感指数	米 実質GDP NATO首脳会議（～30日、スペイン・マドリッド） 日 株主総会の集中日 新月	米 PCEコアデフレーター 米 シカゴ購買部協会PMI WTO紛争解決期間会合 米 農務省作付面積 米 農務省四半期在庫 中 製造・非製造業景況指数	日 日銀短観 中 財新製造業景況指数 米 ISM製造業景況指数 米 新車販売台数	

今週の注目は、ポルトガルの首都リスボン近郊にある世界遺産の観光都市シントラにおいて開催される「ECB中央銀行フォーラム2022」。最終日の現地時間14時から行われるパネルディスカッションには、パウエル米FRB議長、ベイリー英中銀総裁、ラガルドECB総裁、カルステンズBIS(国際決済銀行)総支配人が参加。

NATO首脳会談も、ウクライナへの追加支援の内容が重要。内容如何では、ロシアの対応にも変化が出る。

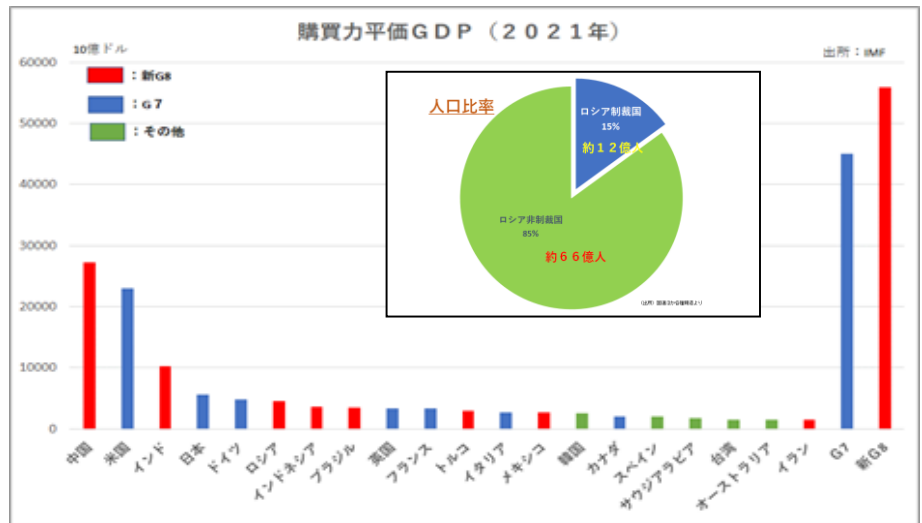
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

前週レビュー・トピックス

～「欧米vs中国・ロシア勢の構図」明確に～

調査課

菊川 弘之



【新・冷戦の勝者は?】

6月15日から18日にかけて、ロシアのサンクトペテルブルクで第25回サンクトペテルブルク国際経済フォーラム(SPIEF)が開催された。「ロシアのダボス会議」とも呼ばれ、各国の政治家や企業経営者が参加し、経済協力を協議する場になっている。

127カ国が参加。例年(140ヶ国)の一割減程度にとどまり、通常と変わらない「賑わい」だった。国連加盟国は現在193ヶ国だが、 $193-48=145$ (カ国)は、対露制裁をしていない。世界人口に占める割合は85%だ。制裁しているのは、わずか15%の人口に過ぎない。(上図円グラフ参照)

新G8構想

ロシア下院のヴォロディン議長は、ロシアに対し友好的な国による「新G8(中国、インド、ロシア、インドネシア、ブラジル、トルコ、メキシコ、イラン)」を提唱。「現在のG7経済は、対露制裁の負荷によって崩壊に瀕している」と主張。新G8の実質GDP(購買力平価PPPを加味した補正值)の合計は、G7を上回っていると例示し、米国が世界の緊張を高めていると批判した。(上図棒グラフ参照)

世界人口の85%の国や地域の人たちが、米国だけが、捏造(ベトナム戦争での「トンキン湾事件」、イラク戦争での「大量破壊兵器」)を基にした他国侵略や一般市民虐殺が許され、非難されないのか?と言う「理不尽さ」を共有している事実を無視してはいけない。

6月23日、中国を議長国としてオンライン形式で第14回BRICS首脳会議が開催された。中国は「連帯して覇権主義に反対する」とし「新興国と途上国の国際的な発言力を高める」と表明。南米アルゼンチンのフェルナンデス大統領は24日、BRICSへの正式加盟を希望すると表明。BRICS5カ国は世界の総人口の42%、国内総生産(GDP)の24%を占めており、農業・資源大国のアルゼンチンが加われば影響力が高まることが予想される。「G7」との対立軸が、より鮮明化してきた。

6月22日、米ノーベル経済学受賞者でコロンビア大学の教授でもあるジョセフ・スティグリッツ氏は、「アメリカは新冷戦に負ける」と「SCHEERPOST」にコメントしている。(6/23・24付け市場分析レポート参照)

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ドル円 (YEN)

～24年ぶりの円安ドル高水準～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

22日のドル円は一時、136円台後半を付け、1998年10月以来、約24年ぶりの円安・ドル高水準を付けた。

ドル・円の動向を決める2大要因である「経常収支動向」と「日米金利差」が同時に円安方向へ向い始めた流れに、投機筋が乗っている状況だ。

米連邦準備理事会(FRB)がインフレを抑え込むために金融引き締めを急いでいるのに対して、日銀は金利を抑え込む姿勢を鮮明にしており、日米金利差拡大を材料にした円売りが続いている。

既存レポートやTVなどで、『一目均衡表からの上値目標値のV=136.36円は、2000年以降の年間値幅の最大値を今年の場合に当てはめた目標値(136.73円)とも重なる。』としたが、先週はこの目標値を達成後、一旦は調整入りとなっている。

ただし、現在、NY市場で投機的に円売りを仕掛けている人達の多くは、日本に関する知見が極めて薄い参加者で、円安モメンタム(勢い)に乗って参加するトレンドフォロー型でポジション取りしていると思われる、10日間安値水準(6/24時点:131円半ば)を割り込まない限りは、押し目買いスタンスを維持すると思われる。上値目標は、6/22付・市場分析レポート(24年ぶりの円安ドル高水準)参照。

日銀が無制限に国債を買い入れる「指し値オペ(公開市場操作)」実施に踏み切ったことで、これまで「金融政策に変化なし」と言うことで、毎回スルーされてきた日銀金融政策決定会合も注目されるようになってきた。

ここ数年、日銀の動きにほとんど無関心だった外国人投機筋が、主要中央銀行の中で日銀だけが緩和を継続するという事実で、久しぶりに日本売りに注目してきた感もある。日銀はイールドカーブコントロール(YCC)を通じ、日本国債発行残高の50%弱を保有している。国債市場でこれほど多くを保有している主要な中央銀行は他にない。保有する国債は、発行残高の50%を超える見通しだ。

「ECB中央銀行フォーラム」最終日に行われるパネルディスカッションが注目。

国債発行残高の50%超を日銀が保有

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金 (GOLD)

～200日移動平均線を中心とした保合い形成～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY金は、
保合い放れ待ち

NY金(8月限)は、200日移動平均線を中心とした収れん中。狭いレンジ相場を形成となっている。1840-1860ドル水準は、価格帯別出来高の厚い支持帯。

20日間安値を更新で、トレンドフォロー型指標は、軒並み陰転となっている。10日間高値(6/24時点:1882.5ドル)を上抜くまでは、戻り売り基調が継続だが、今週10日間高値は切り下がっていく時間帯で、日柄経過と共に売りの時代から中立へ移行しやすい。



日米金利差拡大思惑や、エネルギー高などを背景とした日本の経常収支の悪化を背景とした20年振りの円安もあり、今年の3月以降、円建て金は、ドル建て金と比べて堅調な値動きを見せている。

マザーマーケットのNY金が一番底(5/16安値)を維持できれば、円建て金の調整は限定的となる。ドル円の調整絡みで、6/17安値(右下チャート緑点線)を割り込むと、テクニカル悪化が意識されるものの、マザーマーケットのNYが1番底を維持していれば、JPX金のダブルトップ完成から出る安値は、ダマシで買い場を提供する可能性も。

ロシア・ウクライナ戦争がきっかけとなり、中長期的には、ドルの基軸通貨体制に揺らぎが出てくるかもしれない。6月22日、米ノーベル経済学受賞者でコロンビア大学の教授でもあるジョセフ・スティグリッツ氏は、「アメリカは新冷戦に負ける」と「SCHEERPOST」にコメントした。「民主主義を平和的に輸出する」のではなく、「戦争ビジネスと連携しながらアメリカ流の民主主義を押し付ける」と言ったネオコンのやり方を、「人類の85%」が、好ましく思っていない事実を目を背けてはいけない。米国の覇権・基軸通貨の将来を考える上で、新冷戦の行方は大きなターニングポイントとなろう。(6/23・24付市場分析レポート参照)

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金(Platinum)

～価格帯別出来高の厚い900ドル水準の攻防戦～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

「白金-金」の鞘は、「金買い・白金売り」状態。「利上げ+QT」のダブルパンチに株価が大きく崩れていることが背景。欧米の経済指標の悪化を受けて景気減速懸念が強い。シティグループは、世界的な景気後退の可能性が50%近くあると予測。今後18カ月の世界経済の動向を予想し、景気後退は「ますます明白なりスク」と指摘。

6月の米総合PMI速報値は51.2に低下し、5カ月ぶりの低水準。製造業PMIは52.4と前月57.0から低下。サービス業PMIは51.6と前月53.4から低下。



南ア電力問題や労働者ストに注意

米利上げ姿勢に変化がないことも株価の上値を抑え、白金の上値抑制要因にもなっている。パウエル米FRB議長は議会証言で、米FRBは40年ぶりの高水準で推移するインフレを引き下げること「強くコミット」しており、「そのために迅速に」行動しているとの見方を示した。また景気後退リスクがあっても物価抑制に全力を傾けているとした。ボウマン米FRB理事は、7月の米FOMCで75ベースポイント(BP)の利上げを実施し、その後数回の会合で少なくとも50BPの引き上げが適切となるという見方を示した。

一方、南ア全国金属労働者組合(NUMSA)は20日、インパラ・プラチナム(インプラッツ)が契約しているルステンバーグ鉱山の3企業で組合員が低賃金を理由に無期限ストを開始したことを発表。また、南アフリカの国営電力会社エスコムは24日、賃金交渉の行き詰まりを受けた労働者の抗議行動により、電力供給の削減を拡大する可能性がある」と発表。

5月の南アの消費者物価指数(CPI)は前年同月比6.1%上昇と高インフレが進んでおり、大手労組である南ア全国鉱山労働者組合(NUM)と南ア鉱山建設労働組合(AMCU)の動向は要注意。

価格帯別出来高の厚い900ドル水準が下値支持として機能するか否かが焦点。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ゴム(RSS3号)

～～

調査課

菊川 弘之

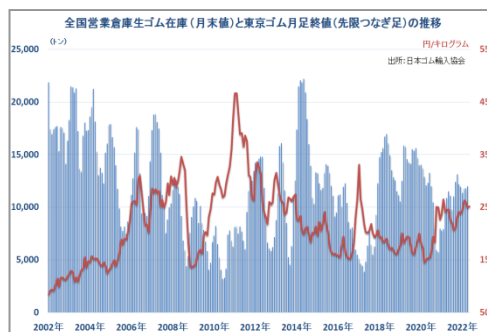


【今週見通し・戦略】

欧米中銀が金融引締め姿勢に転換する中で、株価が大きく崩れており、内外共にゴム市場も、上値が重い。5月の中国の失業率は、5.9%となっており、4月の6.1%から0.2%改善されたが、16-24歳の若年失業率は18.4%と4月から0.2%上昇。また、5月の小売売上高は3カ月連続で前年同月を下回っており、一部では中国の4-6月期GDPはマイナス成長になるとの見方が出ている。

上海は
ダブルボトム形成中

ただ、中国政府が新型コロナウイルスによる景気減速への支援策として、小型エンジン車の購入税の税率を従来の半分の水準に引き下げる措置を発表するなど景気下支えを明確にしており、上海ゴムは、2021年10月高値を起点とした下降チャネル継続も、ダブルボトムを形成中。



習近平国家主席は、決済やフィンテック業界の発展に向けた支援策を承認しており、中国マーケットでは中国政府が景気対策に本腰を入れるとの見方が強まった。

新型コロナウイルスの感染拡大が収まれば、中国の自動車販売は回復に向かいそうで、徐々に底固めへ移行も想定される。

JPXゴム(RSS3号)2022年6月限は、前日比変わらずの270.0円で納会となった。中心限月はレンジ内で放れを待つ展開。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

穀物(大豆・コーン)

～高温乾燥懸念～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

シカゴ大豆は、大崩れとなった。パウエル議長が景気後退(リセッション)の可能性を認めたことでリスク回避の動きが活発化した中、米産地では12日時点の作柄は「良」以上が、前週より2%引き下げられ68%となった。生育ペースは順調であるうえ、今後米産地では気温の低下や降雨が予想されていることで、天候リスクに対する警戒感が後退している。

6月の米農務省(USDA)月例需給報告では22/23年度の需給緩和見通しが示されており、市場の関心が旧穀限月から新穀限月にシフトしつつあるなか、戻りは抑えられ、上値の重い足取りが予想される。

シカゴコーンも大幅安となった。米国産コーンの作柄報告で「良」以上が70%となり、前週より2ポイントの作柄悪化となったが、今月終盤から来月初めにかけの米中西部産地の天候は高温乾燥が後退し、一段の作柄悪化はないとの観測が弱材料となった。相関性の強い小麦、原油が大幅安となったことや、米金融引き締め政策が続き、商品市場から投資資金が流出していることも一因。

6月最終週は、27日に26日時点の作柄報告に加え、30日に作付け面積の発表がある。3月末に発表された作付け意向面積から修正があるかが注目される。28、29日あたりに作付け面積に対する事前予想が出るとみられる。

作柄悪化リスクは残る

天候相場の天王山と言われる独立記念日を無難に通過するようだと、コーンに関しては、今年の豊作を織り込むような動きになる可能性があるのに対して、生育が1ヶ月遅れの大豆は、天候リスクが残ったままで、調整は限定的となる可能性も。

一方、独立記念日前後一週間に、産地のホット&ドライが強まれば、作柄悪化観測からコーンの上値は大きくなる。

ウクライナ穀物輸出協議の行方にも注意したい。

原油(OIL)

～OPECプラス閣僚会合、現状維持か?～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY原油(7月限)は、世界的な景気減速への懸念が強まる中、原油需要の減少を見込んだ調整局面。

パウエル議長は米議会での証言で、インフレ抑制を最優先する金融引き締めを続ける姿勢を強調した。同時に「米経済のソフトランディング(軟着陸)の達成は非常に難しい」と述べた。

シティグループは22日、世界の中央銀行の金融引き締めなどを理由に世界経済が景気後退(リセッション)入りする確率は50%に近づいているとの見方を示した。ドイツ銀行のクリスティアン・ゼービング最高経営責任者(CEO)も、各国・地域の中央銀行がインフレ抑制の取り組みを強化する中で、世界経済がリセッションに向かっているとの見方を示した。米経済が年内に景気後退入りする確率を引き上げる金融機関も増えており、原油需要が減退するとの見方が強まった。

100ドルが地相場

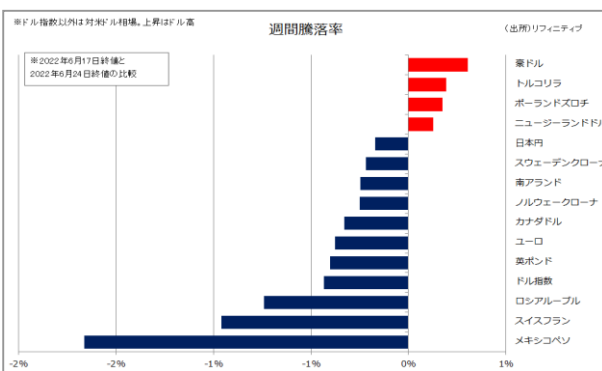
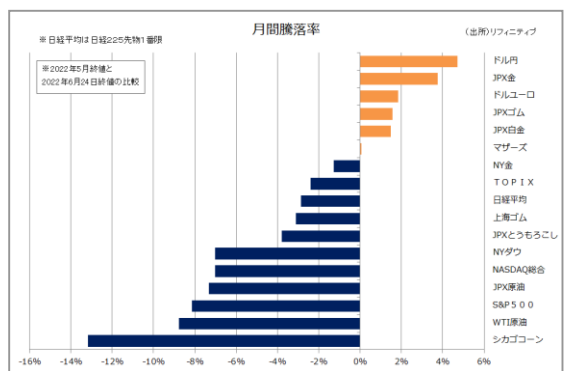
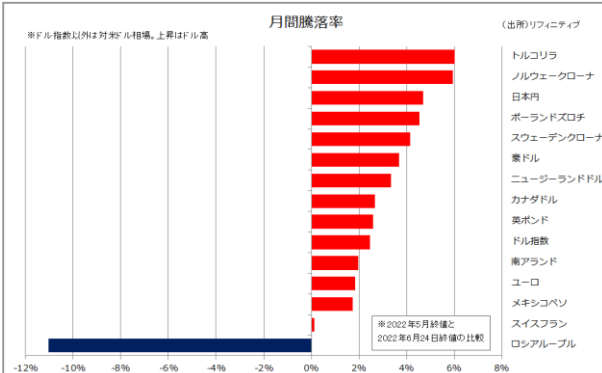
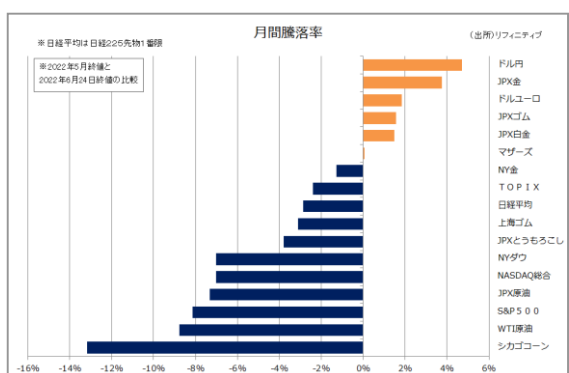
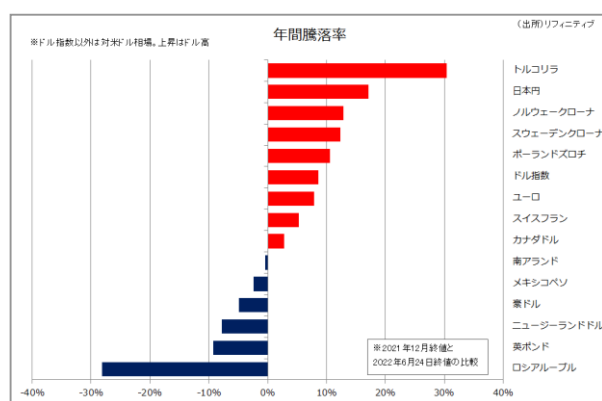
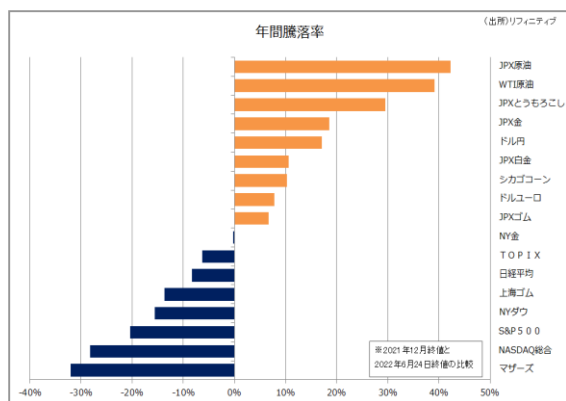
一方、バイデン米大統領が議会に対して1ガロン=18.4セントの連邦ガソリン税の一時引き下げを要請したことは支援要因。実現すれば夏場の需要を支える可能性があるが、実現は不透明。脱炭素社会の実現に向けて精製能力の減少が続くリスクがあることも製品相場を支えている。

また、石油輸出国機構(OPEC)プラスは、今週の閣僚会合で、今月2日に合意した増産計画を維持する見通し。7、8月の増産目標は日量64万8000バレルに引き上げられており、バイデン米大統領のサウジ訪問が決まったことによる影響はない見通し。

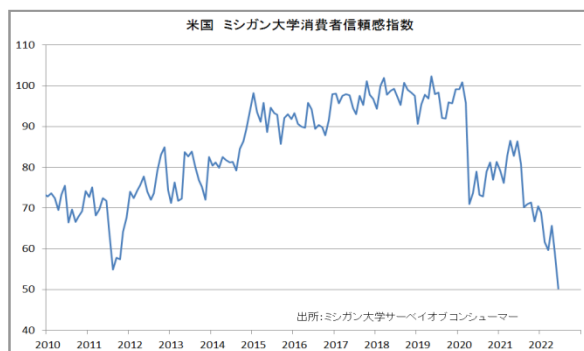
中国の習近平国家主席は24日、ロシアなど新興5カ国(BRICS)や途上国の首脳らによるハイレベル対話をオンライン形式で主宰し、新興国・途上国の連帯を呼び掛けた。22～24日の一連のBRICS会議で中ロ首脳は、米欧をにらみ結束を誇示しており、「OPECプラス」も身内のロシアが不利になるような決定は避けるだろう。

NY原油は価格帯別出来高の厚い100-105ドル水準が下値支持帯として機能している。株価の更なる暴落がなければ、100ドル水準が地相場の高値止まりが予想される。米エネルギー情報局(EIA)週報は22日の発表が技術的な問題で延期になったが、27日に発表される予定。

【騰落率(年間・月間・週間)】



【ミシガン大学消費者態度指数】



【ドイツ IFO業況指数】

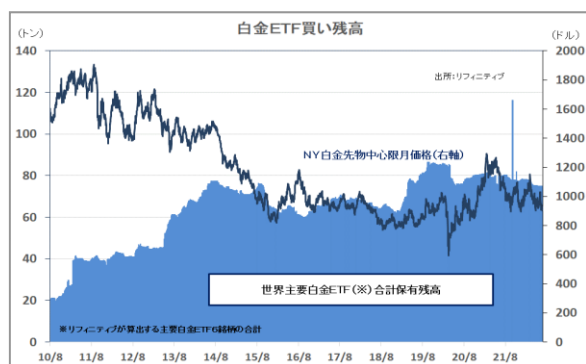


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

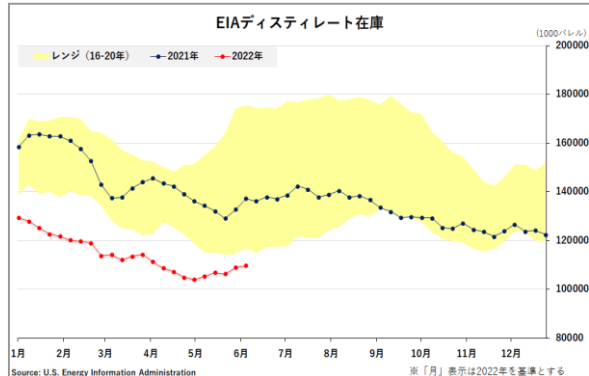
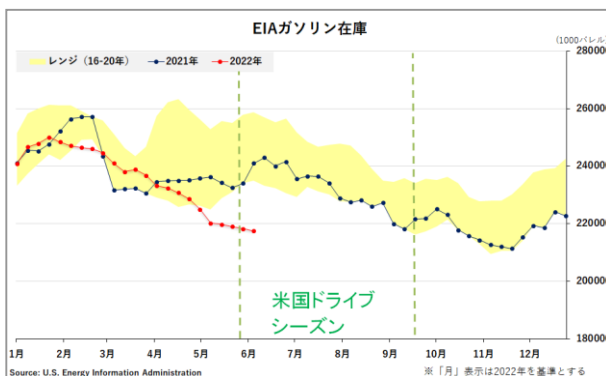
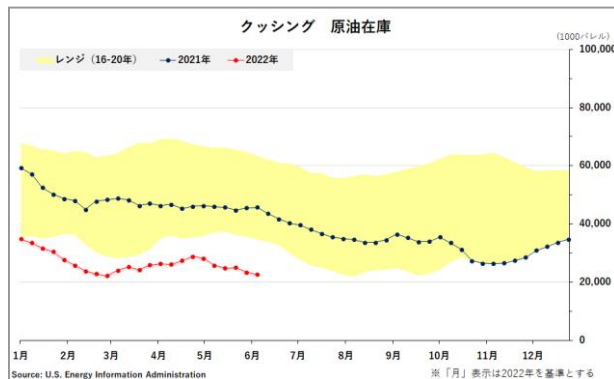
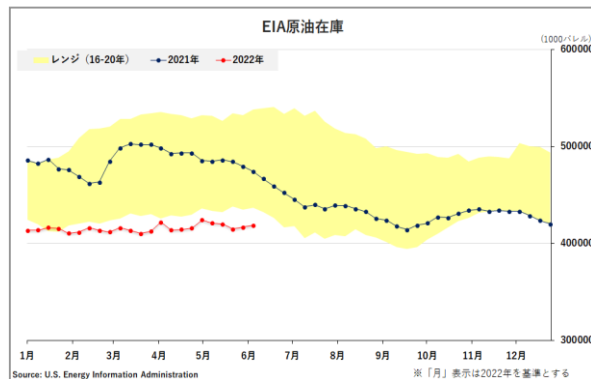


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/6/24	1061.04	-2.03
2022/6/23	1063.07	-8.70
2022/6/22	1071.77	-2.03
2022/6/21	1073.80	-1.74
2022/6/17	1075.54	+11.60
2022/6/16	1063.94	±0
2022/6/15	1063.94	±0



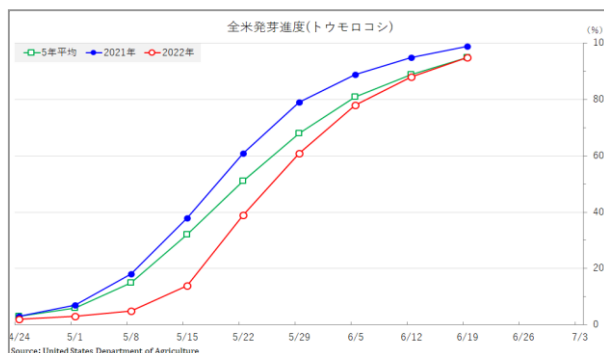
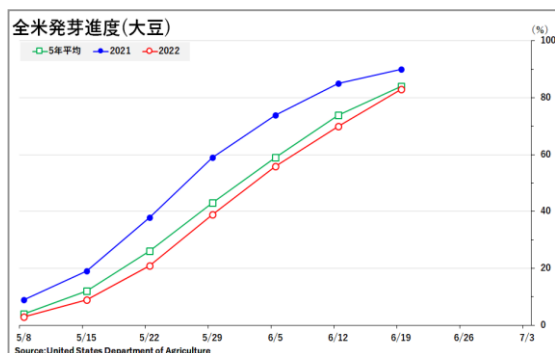
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/6/24	75,020.15	±0
2022/6/23	75,020.15	-0.16
2022/6/22	75,020.30	-125.50
2022/6/21	75,145.81	+101.09
2022/6/17	75,044.72	±0
2022/6/16	75,044.72	-0.12
2022/6/15	75,044.85	-0.03

【EIA在庫】

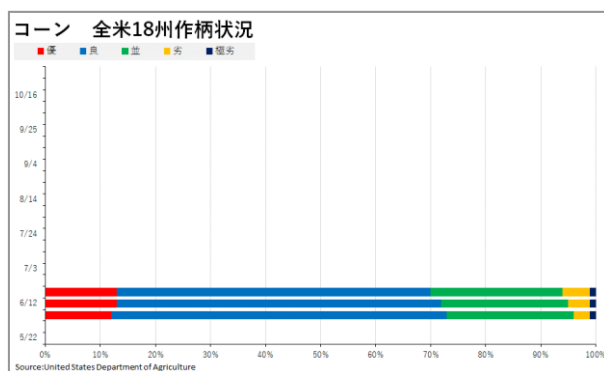
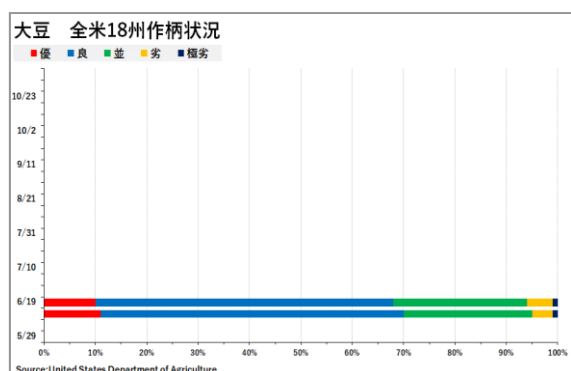


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

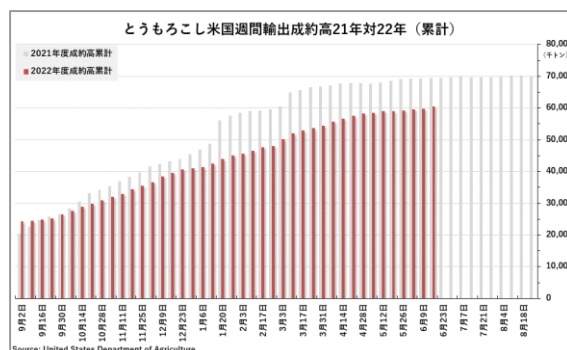
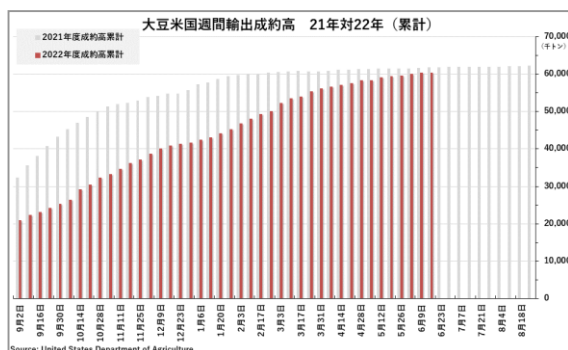
【USDA生育進捗(大豆・コーン)】



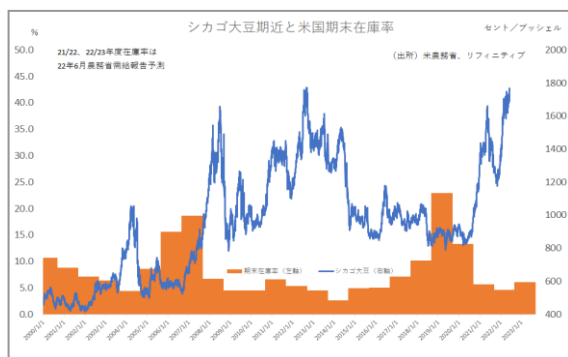
【USDA作柄(大豆・コーン)】



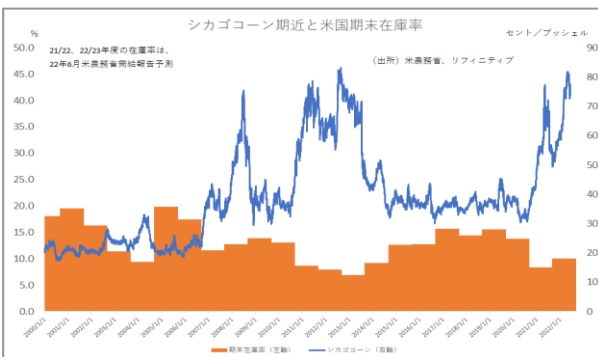
【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



【米国産大豆期末在庫率】

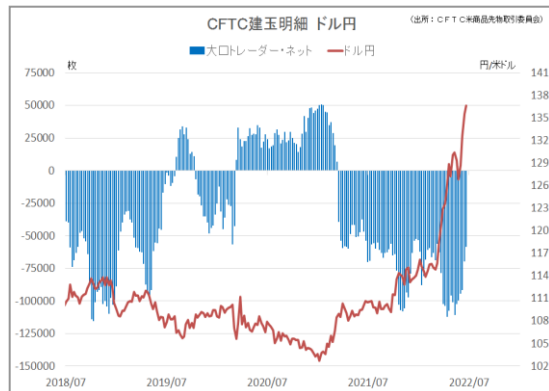


【米国産コーン期末在庫率】

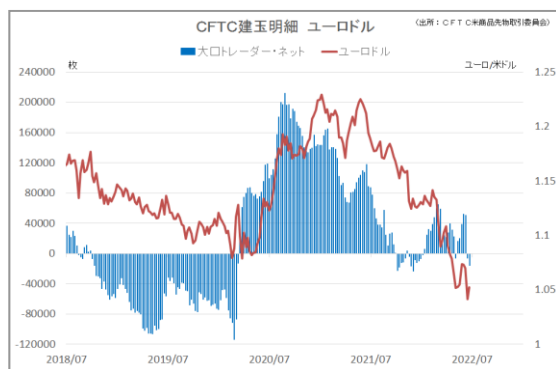


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

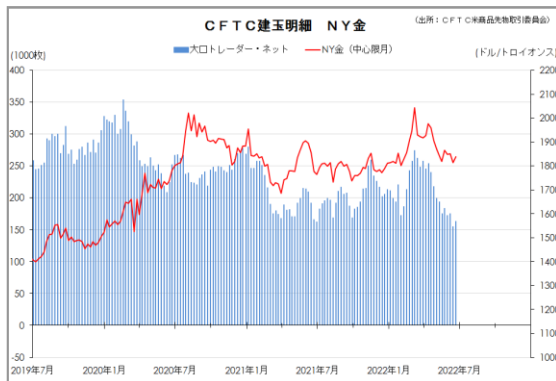
【CFTC建玉明細】



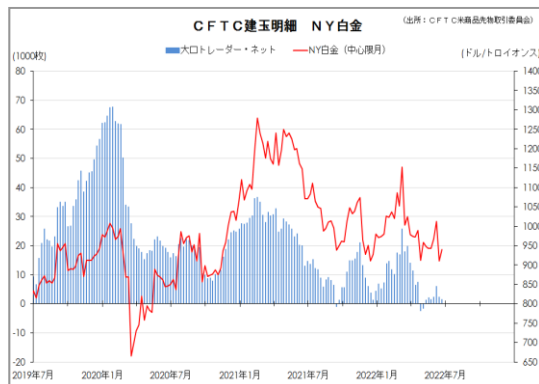
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	16,567	116,011	-99,444	126.8
2022/5/31	15,201	109,640	-94,439	128.68
2022/6/7	18,466	110,112	-91,646	132.58
2022/6/14	32,441	102,196	-69,755	135.47
2022/6/21	35,864	94,318	-58,454	136.61
前週比	3,423	-7,878	11,301	1.14



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	237,072	198,142	38,930	1.0734
2022/5/31	236,553	184,281	52,272	1.0733
2022/6/7	230,248	179,705	50,543	1.0699
2022/6/14	206,986	213,004	-6,018	1.0414
2022/6/21	195,554	211,159	-15,605	1.0525
前週比	-11,432	-1,845	-9,587	0.0111



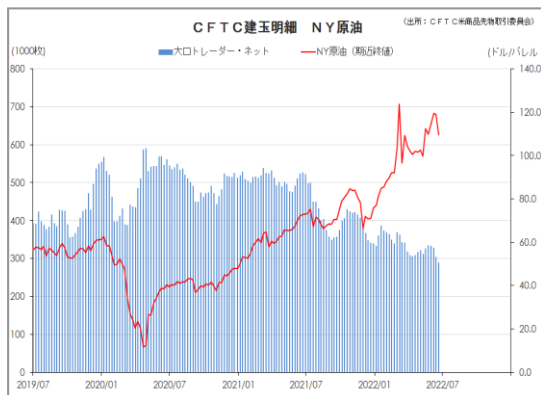
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	282,202	98,389	183,813	1865.4
2022/5/31	269,459	96,870	172,589	1848.4
2022/6/7	270,356	95,088	175,268	1852.1
2022/6/14	266,596	111,998	154,598	1813.5
2022/6/21	268,119	104,832	163,287	1838.8
前週比	1,523	-7,166	8,689	25.3



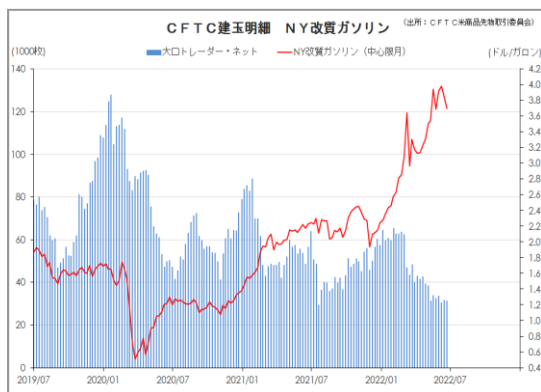
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	26,052	24,567	1,485	942.9
2022/5/31	27,226	24,863	2,363	968.3
2022/6/7	27,004	21,071	5,933	1012.9
2022/6/14	25,085	22,871	2,214	910.7
2022/6/21	25,676	24,185	1,491	939.5
前週比	591	1,314	-723	28.8

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

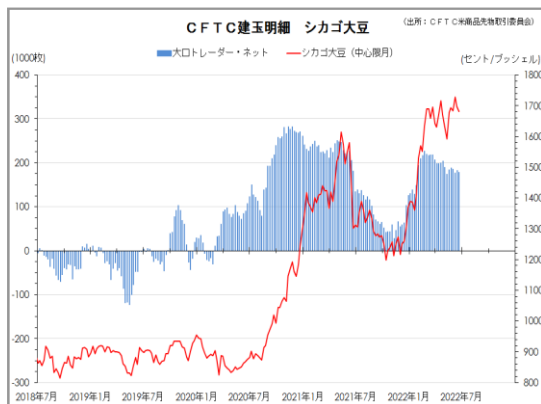
【CFTC建玉明細】



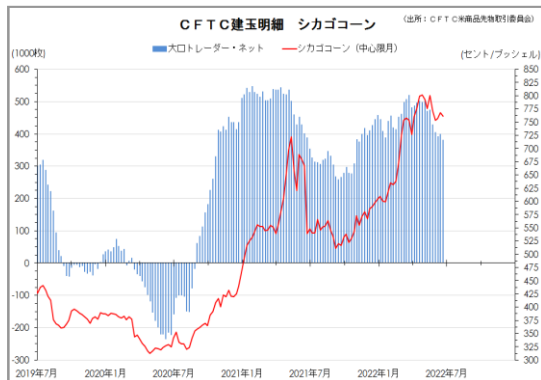
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	422,541	87,780	334,761	109.77
2022/5/31	421,683	88,707	332,976	114.67
2022/6/7	423,882	95,626	328,256	119.41
2022/6/14	409,427	106,481	302,946	118.93
2022/6/21	388,496	98,994	289,502	109.52
前週比	-20,931	-7,487	-13,444	-9.41



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	72,517	40,092	32,425	3.6897
2022/5/31	76,089	42,399	33,690	3.9162
2022/6/7	75,841	45,353	30,488	3.9788
2022/6/14	76,744	45,288	31,456	3.8419
2022/6/21	75,835	44,428	31,407	3.6953
前週比	-909	-860	-49	-0.1466



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	236,164	47,796	188,368	1693.00
2022/5/31	237,836	51,758	186,078	1683.25
2022/6/7	229,895	53,251	176,644	1728.25
2022/6/14	229,930	47,263	182,667	1698.50
2022/6/21	226,191	47,812	178,379	1681.00
前週比	-3,739	549	-4,288	-17.50



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/24	563,850	136,002	427,848	771.75
2022/5/31	551,849	147,649	404,200	753.50
2022/6/7	520,783	129,519	391,264	757.00
2022/6/14	519,685	119,910	399,775	768.25
2022/6/21	504,174	124,005	380,169	760.75
前週比	-15,511	4,095	-19,606	-7.50

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

＜商号等＞ 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）
関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者
＜加入協会＞ 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。